

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【東牟婁振興局】重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】
～いちご定植ほ現地研修（第4回イチゴセミナー）を実施～

令和5年12月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 河西農業士会で簿記研修会を開催	
2. もも「さくひめ」せん定講習会を開催	
II 那賀振興局	2-3
1. 黒大豆収穫イベントを開催 ～紀の川市鞆渕地区～	
2. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験を実施	
III 伊都振興局	4-5
1. 小学校でみそづくり伝承活動を実施	
2. かきのせん定講習会（農業技術講習会果樹コース）を開催 ～重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成によるかき産地の活性化】	
3. 野菜の栽培技術講習会（農業技術講習会野菜コース）の開催	
4. クビアカツヤカミキリ対策研修会の開催	
IV 有田振興局	6
1. 「クリスマスみかんツリー」配布による有田みかんPR	
V 日高振興局	7
1. 令和5年度日高地方農村青年交流会を開催	
2. 第38回美浜町農産物品評会を開催	
VI 西牟婁振興局	8
1. 稲成いちご研究会が栽培出荷研修会を実施	
2. 中辺路町生活研究グループが中学校で食育活動を実施	
VII 東牟婁振興局	9
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～いちご定植ほ現地研修（第4回イチゴセミナー）を実施～	
2. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施	
VIII 農林大学校	10
1. 本年も柿・トマトでGLOBAL G. A. P. 認証を取得	
2. プロジェクト研究発表会を開催	
IX 経営支援課	11
1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会クラブ員が近畿4Hクラブ 連絡協議会主催のマルシェに参加	

I 海草振興局

1. 河西農業士会で簿記研修会を開催

河西農業士会（会長：増田恵一郎氏）では、12月1日に中洲出荷組合会議室にてソリマチ株式会社農業情報営業部の應治弘昭氏を講師に簿記研修会を開催し、会員5名が参加した。昨年度は、座学にて農業簿記の基礎を研修し、今回は実際に農業簿記ソフトでの入力体験を行った。各自、事前に「農業簿記12」の体験版をダウンロードしたパソコンを持参し、テキストを見ながら具体的な数字を入力した。今回の研修で、農業簿記12の基本操作やデータの活用の方法などを知ることができた。参加者からは、「こういったソフトの活用により、自身の経営を把握することで経営の改善に繋がると思う」との声があった。当課では、今後も経営力の向上に繋がる研修等を実施していきたい。



研修会の様子

2. もも「さくひめ」せん定講習会を開催

12月18日、経営支援課の堀田農業革新支援専門員を招いて「さくひめ」のせん定講習会を開催し、JAわかやま桃部会員4名とJAわかやま担当者が出席した。堀田農業革新支援専門員から、葉芽が少ない、充実した短果枝が少ないなどの「さくひめ」の特徴を聞いた上で、実演を通してせん定のポイントを教わった。出席者は「日川白鳳」と同じように切って切りすぎになってしまいそう」という意見や「除袋のタイミングはいつか」という質問などがあり、「さくひめ」の栽培についてより知識を深めてもらうことができた。



せん定実演の様子

<せん定のポイント>

1. 葉芽を大事にする。
2. 枝の先端しか葉芽がない場合は切り返ししない。シンクイムシなどの被害がある場合や遅伸びして芽が着いていない場合は葉芽まで切り返す。葉芽のない枝は間引く。
3. 葉芽を確保すると弱せん定になるため、摘蕾・摘花の際に、枝が混んでいるようなら間引き、せん定時に見逃した花芽ばかりの枝は葉芽の直上まで切り返す。
4. 側枝更新を考えてせん定する必要あり。次の年の樹形を考えながらつくる。

Ⅱ 那賀振興局

1. 黒大豆収穫イベント大盛況！ ～紀の川市鞆淵地区～

12月2日、ともぶち地域活性化実行委員会は、紀の川市鞆淵地区で黒大豆収穫イベントを開催し、県内外から29組（大人52名、子ども15名）の参加があった。

開会にあたり井中会長から「コロナ禍の3年間は規模を縮小して実施していたが、今年から通常通りに戻した。しかし、6月2日の台風2号で田畑や人家が被災した。悲しいことがあったが、関係者の力を合わせて今回のイベントにこぎつけた。皆さんには今日一日楽しんでいただきたい」と挨拶があった。

午前中、参加者は黒大豆を収穫し、たき火で暖を取りながら、株からさやを摘み取った。午後からはオプションでしめ縄作りや丸太切り体験、餅つき体験があり、イベントの最後は餅まきで締めくくった。イベント会場には農産物やポン菓子販売ブースがあり、多くの参加者が買い求めていた。

なお、1月13日には、ちぢみほうれん草^{*}の収穫イベントを行う予定である。

農業水産振興課では、今後ともともぶち地域活性化実行委員会の活動を支援していく。

^{*}霜にあてることで糖度10度以上にもなる鞆淵地区名産の甘いほうれん草。



黒大豆のさやを摘み取る参加者



しめ縄作り



農産物販売



餅まき

2. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験

12月14日～15日、農業水産振興課では岩出市立岩出中学校2年生7クラス233名を対象とした郷土食体験を実施した。

この取組は、生徒達が地域農業や郷土料理について理解を深めることを目的としており、地域に伝わる「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使った「ごま和え」の調理実習を行った。

当日は岩出市生活研究グループ協議会の役員が講師を務め、2日間でのべ33名の会員が指導にあたった。

最初に講師から、実習に使う材料のうち、餅・味噌・だいこん・にんじん・さといも・なばなは、グループで加工または会員が栽培した物であること、また、お雑煮に入れる野菜は「家族円満に、一年を通じて何事も丸く収まりますように」という意味合いを込めて、全て丸く切るといった説明があった。

その後、生徒は会員の指導を受けながら調理を行った。はじめは何をしてよいかわからずとまどっていた生徒も会員に促されると、熱心に調理していた。

試食をした生徒達からは「お餅が柔らかくておいしかった」「家でも作りたいのでレシピが欲しい」といった感想が聞かれた。初めてお雑煮を食べたという生徒も見受けられ、参加した会員達は食育活動の大切さを再認識していた。

当課では、今後も生活研究グループや農家と連携し食育活動を推進していく。



郷土食について説明する講師



調理実習



(左) お雑煮 (右) なばなのごま和え

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校でみそづくり伝承活動を実施

橋本市生活研究グループは昔から地域で作られている米みそづくりを後世に伝承するため、12月5日、6日の2日間、あやの台小学校の3年生57名を対象にみそづくり体験を実施した。会員が講師となり、1日目は、みその種類やみそづくりに必要な材料、手順などの説明や、大豆を煮て、挽くといった作業を行った。2日目は、挽いた大豆と米麴を混ぜ合わせ、団子状に丸めて容器につめる仕込みを行い、熟成までの管理方法や期間について説明を行った。

児童からは、「ミンチされた大豆が機械から出てくる所がおもしろい」、「大豆をお団子のかたちにするのが楽しかった」などの感想があった。



講義を清聴する児童たち



大豆を団子にする作業

2. かきのせん定講習会（農業技術講習会果樹コース）を開催

～重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成によるかき産地の活性化】～

12月5日、かきの栽培管理に関する技術講習会を開催し、就農希望者や就農後間もない果樹農家15名が受講した。今回の研修会では、収穫後の休眠期の樹体管理作業として、せん定技術を中心に講義と現地実習を行った。

はじめに、森口普及指導員が、整枝・せん定、土づくり及び休眠期防除について講義を行った。続いて、間佐古普及指導員が、近年に被害が多く発生し、かきの栽培管理で注意が必要な炭そ病、カメムシ等の防除について講義を行った。

現地実習では、普及協力委員である九度山町の藤田氏のかき園に移動し、「刀根早生」の整枝・せん定技術の説明と実演を行い、受講者は、結果母枝の配置や結果枝をイメージしながら、整枝・せん定の実習に取り組んだ。



講義の様子



現地研修（せん定）の様子

3. 野菜の栽培技術講習会(農業技術講習会野菜コース)を開催

12月20日、当課は農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的とした農業技術講習会を開催し、就農希望者や新規就農者の10名が受講した。今回の研修会では、まめ科野菜と軟弱野菜の栽培技術について講義を行った。

山田主査が、えんどうまめ、いんげんまめ、そらまめ、ほうれんそう、しゅんぎく等について各品目別の特徴、栽培管理、主要病虫害の防除等について講義を行った。

受講者からは「近年は異常気象の年が多く、栽培管理が難しい」といった意見があった。



講義の様子

4. クビアカツヤカミキリ対策研修会を開催

12月22日、かつらぎ総合文化会館において、伊都地方農業振興協議会の主催により、クビアカツヤカミキリの被害を受けた生産者の方々を対象にした研修会が開催され、生産者や関係機関職員など48名が出席した。

はじめに、間佐古普及指導員が、クビアカツヤカミキリの生態、被害発生状況及び防除対策について説明を行い、その後、福塚主査が令和5年度の病虫害防除対策事業の事業内容、申請方法について説明を行った。

被害を受けた生産者の方々からは、クビアカツヤカミキリの生態、防除対策への取り組み状況、補助事業等について質問や意見があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、クビアカツヤカミキリの防除対策に取り組んでいく。



研修内容（補助事業の説明）



展示コーナー（かき・もも研究所提供）

V 日高振興局

1. 令和5年度日高地方農村青年交流会の開催を支援

12月3日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：尾曾 匠氏）主催のもと、クラブ員と消費者が、互いの理解を深め、日高地方の農産物の魅力を伝えることを目的とした交流会が開催され、クラブ員11名、消費者11名の計22名が参加した。

まず、西田農園の西田秀美氏を講師に迎え、日高地方で栽培されている花木を中心に、ドライフラワーや、クリスマスリース、しめ縄飾りなどの制作を含めたフラワーアレンジメント体験が行われた。続いて行われたバーベキュー交流会では、クラブ員の育てた野菜が材料に使われ、参加者は舌鼓を打って食事を楽しんだ。

消費者からは「日高地方では、多種多様な農作物が作られていて、それぞれの品目栽培に特化した農家がいることを知れた」や「今回の交流会で、農家の普段の仕事内容や暮らしについてうかがい知ることができ、親近感が湧いた」などの声があった。



フラワーアレンジメント体験



バーベキュー交流会

2. 第38回美浜町農産物品評会大盛況！

12月10日、美浜町農業まつり実行委員会と美浜町農業振興研究会（両組織とも会長：久保博巳氏）が主催で、4年ぶりに品評会が開催された。148点の農産物が出品され、きゅうり、玄米、ねぎ、みかん等様々な品目が集まり、形のそろったものや傷の少ない美しいものが多く見られた。前日の12月9日にJA紀州と普及指導員で出品物を審査しており13名が入賞。最優秀賞である和歌山県知事賞には、きゅうりを出品した道端ゆみ子氏が輝いた。

式が終わると同時に購入を目的に人が詰めかけ、賑わいのある品評会となった。



品評会の会場に集まった新鮮な農産物



和歌山県知事賞を受賞する道端さん

VI 西牟婁振興局

1. 稲成いちご研究会が栽培出荷研修会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、12月4日に会員8名、JA紀南職員2名、農業水産振興課 谷普及指導員の計11名参加のもと栽培出荷研修会を実施した。

はじめに、会員の栽培施設を巡回し生育状況を確認した後、JA販売担当職員から、共同出荷における荷受け開始日等についての説明があった。続いて谷普及指導員から、炭酸ガス施用による収量、品質（糖度）、生育への影響やアザミウマ類に対する天敵導入による防除回数の削減等、今年度実施している試験概要について説明した。

会員やJA職員からは「9月の定植時期やそれ以降高温が続き、1番花の出蕾遅れやばらつきが見られる」、「炭そ病やハダニ類、ヨトウムシ等が特に多い」、「品質検査の結果は市場担当者へも伝えており、高品質生産を維持してほしい」等の意見があった。

当課では、今後もJAと連携し、高品質安定生産に向けて、栽培施設の巡回調査や意見交換会実施による情報共有等、同研究会の活動を支援していく。



会員の栽培施設巡回

2. 中辺路町生活研究グループが中学校で食育活動を実施

中辺路町生活研究グループ（会長：森川敏子氏）は、12月11日、田辺市立中辺路中学校において食育活動を実施した。

グループ員4名が講師となり、2年生13名と「鹿肉の竜田揚げ」、「鹿肉のつくだ煮」、「イタドリのサラダ」、「梅ごはん」の調理実習を行った。生徒らは慣れない手つきで始めたが、皆で協力して楽しく調理し、それぞれ彩りよく盛り付け、完成した料理を昼食として全員で食べた。

鹿肉やイタドリを初めて食べる生徒もいたが、どの料理も好評で「また家でも作ってみたい」との声も聞かれた。

中辺路町生活研究グループでは、今後も中学校での食育活動を継続していく予定であり、農業水産振興課も支援していく。



グループ員と生徒が対話しながらの昼食

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～いちご定植ほ現地研修（第4回イチゴセミナー）を実施～

12月7日、那智勝浦町苺生産組合（会長：松出真紀氏）は、いちご「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、定植ほ現地研修を実施した。当日は、生産者14名、JAみくまの及び農業水産振興課併せて3名が出席し、各生産者のほ場を巡回した。

各ほ場では、共同出荷の開始及び目慣らし会の実施時期を検討するため、生育や病虫害の発生状況などの確認を行った。今年は8月や9月の気温が平年より高くなったことから、例年よりも花芽分化が遅れ開花も遅くなり、収穫時期が遅れた。

病虫害の発生状況は、定植後炭そ病等の発生が例年より少ない傾向で、ほ場によってはハダニが発生していた。農薬の種類や散布時期について生産者で意見交換を行った。

ハダニ類天敵防除実証ほの試験結果の報告と天敵導入時の栽培管理について説明を行い、ハダニに効果的な農薬や散布方法及び成り疲れ症状抑制対策について話し合った。



栽培状況の検討

2. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

12月12日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）は、新宮広域圏公設地方卸売市場で栽培出荷検討会（反省会）を実施した。生産者5名の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課職員併せて12名が参加した。

松本会長から、「今年は8月の台風7号による強風被害は影響甚大で、その後の収量が伸びなかった。アブラムシは多発したが何とか防除できた。また、良苗の確保が難しく定植後の生育に大きく影響した生産者もいたので、昨年に比べて出荷量が減少した」と挨拶があった。

また、新たに2戸なす栽培を始める生産者があるので、良苗の確保とは場の選定に努めること等を話し合った。



なすの栽培出荷検討会（反省会）

Ⅷ 農林大学校

1. 今年も柿・トマトで GLOBAL G.A.P. 認証を取得

農林大学校では、世界的な競争力を身につけた担い手を育成するため、生産工程管理の国際的な認証制度である GLOBAL G.A.P. 認証取得に向けたカリキュラムを令和2年度から本格的に開始しており、4年目となる今年度も認証継続に挑んだ。

10月11、12日に認証審査を受け、食品安全・環境保全・労働安全など200以上の項目について基準を満たしているかの確認が行われ、学生が中心となって対応した。その結果、12月上旬、GLOBAL G.A.P.の継続が認められた認証証明書を受領した。

農林大学校では、引き続きトマトとかきの認証継続を通じて学生の視野を広げ、世界水準の生産工程管理を実践できる人材育成に努めていく。



書類審査



現地確認

2. プロジェクト研究発表会を開催

12月15日、プロジェクト研究発表会を開催した。この発表会は学生が学科・コース別に農業経営や農業技術の改善などの課題を設定し、解決に向けた研究（プロジェクト研究）に取り組んだ結果を発表するもの。

当日は、各学科・コース代表者から日頃の調査研究活動や自らの経営の成果、目標について3課題の発表があった。

審査の結果、最優秀賞には、野菜コースの「ミニトマトにおける積算温度を用いた収穫時期の予測」、優秀賞には果樹コースの「柿の GLOBAL G.A.P 4年目継続認証取得チャレンジ」が選ばれた。なお、野菜コースの課題は、来年2月に開催される東海・近畿ブロック農業大学校学生研究発表会及び意見発表会（大阪府）で県代表として発表する予定。



発表の様子

IX 経営支援課

1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会クラブ員が近畿4Hクラブ連絡協議会主催のマルシェに参加

12月17日、近畿4Hクラブ連絡協議会が奈良市の奈良公園バスターミナルにおいてマルシェを開催し、和歌山県4Hクラブ連絡協議会（会長：小澤光範氏）からクラブ員3名が参加した。

クラブ員らは、かんきつ、さつまいも、いちごを出品し、食べきれぬ量で価格を抑えて買いやすくしたり、数品種を比較して食べ比べられる試食を行うなど、それぞれ工夫して販売していた。滋賀、京都、兵庫、大阪、奈良の4Hクラブも出店しており、野菜や果物、茶等を持ち寄って販売した。中には、プランターににんじん等を植えて収穫体験させるような取組もみられた。

他府県のクラブ員と顔を合わせる機会にもなり、参加したクラブ員らは名刺を交換したりそれぞれの栽培品種について情報交換するなど、交流を深めていた。



販売開始後の和歌山ブース



参加者集合写真

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489